



マスコットキャラクター：アマモン

アマモ・リバイバル・プロジェクト

多様な主体の協働による金沢湾のアマモ場の再生、持続的な利用、順応的な管理

Amamo Revival Project

Multi-sectional Collaboration for Eel-grass bed restoration around Knazawa Bay



金沢湾でのアマモ場再生活動の風景 画：浜中せつお

金沢八景のアマモ場は波静かな入り江の奥にあり、東京湾に暮らすさまざまな生き物が育つ、海のゆりかごとなっています。そして潮が引けば水面にアマモを敷き詰めたり、子供たちにとって格好の自然観察の場ともなります。こうしてアマモ場は、東京湾を守る次の世代も育てています。

■ 活動の目的

横浜市沿岸部、特に横浜港南端に位置する金沢湾を中心に、海辺の生態系や生活文化、地域社会、さらには海を通じた人と人とのつながりの再生を目指して、市民・NPO、企業、大学・研究機関、小・中・高校、漁業関係者、行政等多様な関係者が緩やかに連携・協働して、金沢湾周辺のアマモ場の再生活動や、再生したアマモ場の持続的な利用や順応的な管理を進めています。

■ 主な活動の内容

金沢湾でのアマモ場再生活動は2003年6月から継続して実施しており、1年を通じてアマモの生活史にあわせた再生活動(花枝採取、種子選別、播種、苗づくり、移植)を行うとともに、アマモ場再生の効果を科学的に把握するための引網調査を「海をつくる会」を中心に毎月実施しています。

また、再生活動にあわせて参加者向けの「海の環境学習会」を実施しているほか、その年の再生活動の成果や課題を発表・共有する場として「横浜・海の森つくりフォーラム」(年1回)を開催したり、地元漁業関係者を対象にした「アマモ場再生報告会」を開催したりしています。

■ 神事「無垢塩祓ひ」の復活

平潟湾のアマモ場から刈り取ったアマモを使った神事「無垢塩祓ひ」は、アマモ場の消失とともに永らく途絶えていましたが、平成23年7月、地元の瀬戸神社の天王祭で88年ぶりに復活を遂げました。富岡八幡宮の神事「祇園船」でも再生したアマモが使われています。



■ ひろがる活動の環
神奈川県水産技術センターが担ってきた種子の生産と供給は、地元漁師のみなさんの協力によって地元の柴漁港内で自ら行っています。さらに、国交省と横浜市が主導する「UMIプロジェクト」により多くの民間企業がベイサイドマリーナの浅場でアマモ場の再生活動に取り組んでいます。

多様な関係者が協働するアマモ場再生の枠組み

金沢八景・東京湾アマモ場再生会議がコーディネーター役を務め、住民・NPO・市民団体・行政・漁業者、民間企業・試験研究機関・教育機関など多様な関係者が緩やかに連携・協働してアマモ場の再生活動を進めています。

NPO・市民団体

NPO海辺づくり研究会、海をつくる会、NPO BlueLife、ふるさと侍徒隊に親しむ会、東京湾の環境をよくするために行動する会ほか

行政

国土交通省(関東地方整備局港湾空港部)、神奈川県(水産課・水産技術センター)、横浜市(環境創造局・港湾局・温暖化对策統括本部等)、金沢区ほか

教育機関

横浜市立大学、武藏野大学、横浜市内の小学校、横浜市立金沢小学校、横浜市立金沢総合高校、県立海洋科学高校ほか

金沢湾の場所



安藤広重の代表作「金沢八景」の舞台となった、かつては風光明媚な海辺でした。

横浜唯一の自然海岸である「野島海岸」や、人工島の「八景島」、人工海浜の「海の公園」などがあります。

金沢八景－東京湾アマモ場再生会議

Amamo Revival Collaboration in Kanazawa-Hakkei, Tokyo Bay Area

(連絡先) ☎220-0023 神奈川県横浜市西区平沼2-4-22 ジュネスササキ202号 (海辺つくり研究会内) TEL: 045-321-8601 FAX: 045-317-9072
ホームページ <http://www.amamo.org/> デジタルアーカイブ <http://picasaweb.google.com/amamo8k/>

(Contact Us) 2-4-22-202, Hiranuma, Nishi-ku, Yokohama, 220-0023, Japan Phone: +81-45-321-8601 FAX: +81-45-317-9072
(Web site) <http://www.amamo.org/> (Archives) <http://picasaweb.google.com/amamo8k/>



<http://www.amamo.org/>